

(11) 沖縄



沖縄地域では、景気は回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

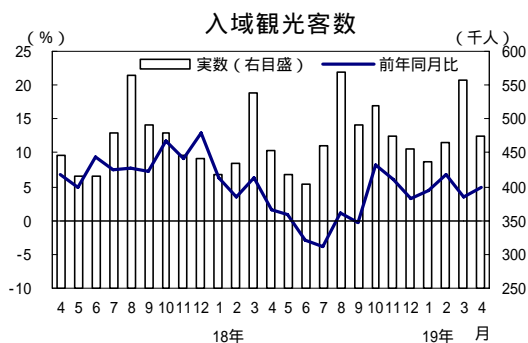
前回調査からの主要変更点

	前回（平成19年2月）	今回（平成19年5月）	
住宅建設	増加	減少	

1. 観光及び企業動向

(1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数は、1月は、航空会社のキャンペーンが実施されたことにより前年を上回った。2月は、プロ野球の春季キャンプツアーが好調だったことや、航空会社が運賃の割引提供を強化したこと、天候に恵まれて3連休の観光客も増加したことなどから前年を上回った。3月は、東京、名古屋での提供座席数の増加や、春休み期間を利用した観光客が大幅に増加したことにより前年を上回った。4月は、ゴールデンウィークの日並びがよかったことや、東京方面を中心に個人客が好調だったことから前年を上回った。
 なお、1、2、3、4月は過去最高を記録し、引き続き高い水準で推移している。
 1～3月期における主要ホテルの客室稼働率については、入域観光客数の増加を背景に、那覇市内ホテルやリゾートホテルが好調だったことから、全体でも前年を上回った。



入域観光客数等の動向

(単位：千人、%)

	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月
入域観光客数	1,276	1,520	1,500	1,459
(前年比)	0.2	0.9	5.9	4.8
ホテル稼働率(前年差)	0.0	1.6	0.7	2.1

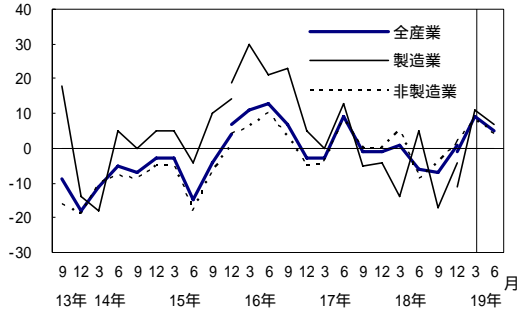
(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光商工部調べ。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超に転じており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

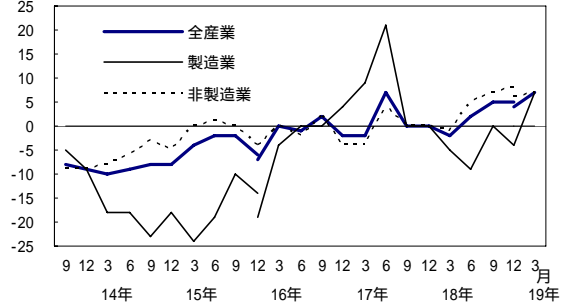
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



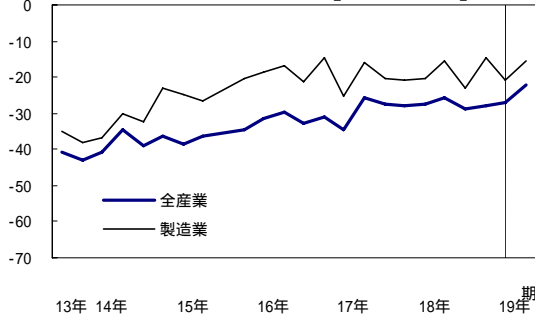
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年6月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。
九州地区のD I。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「新築住宅の単価は下がり気味で、住宅のリフォームは上がり気味なので、トータルでは横ばいである(建設業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

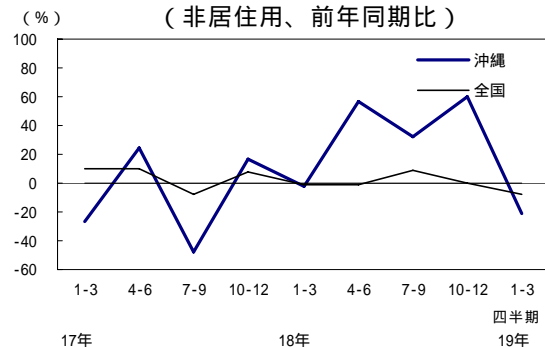
(3) 18年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績見込み	19年度概
全産業	13.5(2.3)	3.1
製造業	7.1(4.6)	44.2
非製造業	14.4(3.1)	2.2

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。石油・電力を除く。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額及びコンビニエンスストア販売額

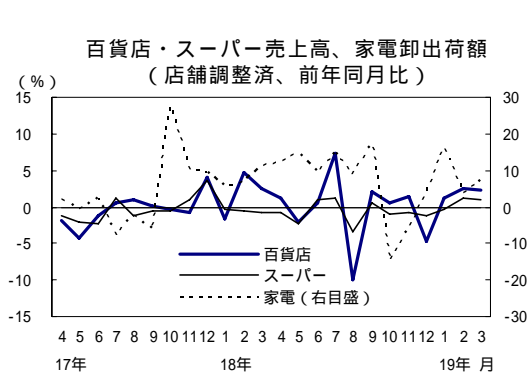
百貨店は、1月は、初売りセールや物産展などの催事効果により、身の回り品やその他衣料、食料品が好調だったことから前年を上回った。2月は、暖冬傾向が続く中、来客数が多く、バレンタイン商戦が好調だったことなどにより、前年を上回った。3月は、靴やバックなどの身の回り品が好調だったことから、全体として前年を上回った。

スーパーは、食料品の販売が堅調であったほか、春物の衣料品の出足が好調だったため、前年を上回っている。

家電は、地上デジタル放送開始に伴う対応機種テレビの売上のけん引などにより前年を上回っている。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「週末や企画立ち上がりの週初めに天候が崩れ、来客数が大幅に減少している。特に衣料品においては前年の92%まで落ち込んでいる。その結果、売上としては前年同月比で8%減少している(百貨店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



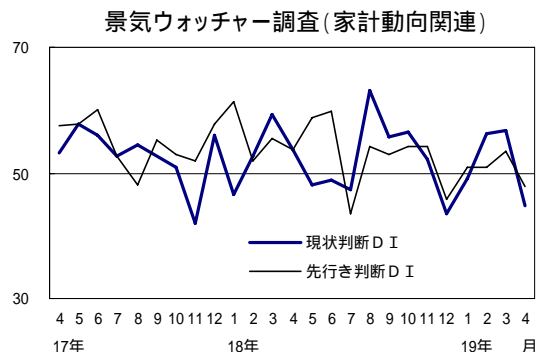
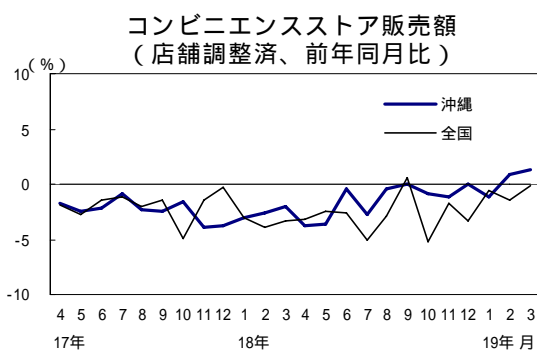
(前年同期比, %)

	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月
百貨店	0.1	0.0	1.5	2.0
スーパー	0.7	0.6	1.0	0.6
家電卸出荷額	11.8	13.8	5.1	8.7
コンビニ	2.5	1.4	0.7	0.3
景気ウォッチャー	50.3	55.3	50.7	54.0

(備考) 1. 百貨店、家電は沖縄銀行調べ。

2. スーパー、コンビニは日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。

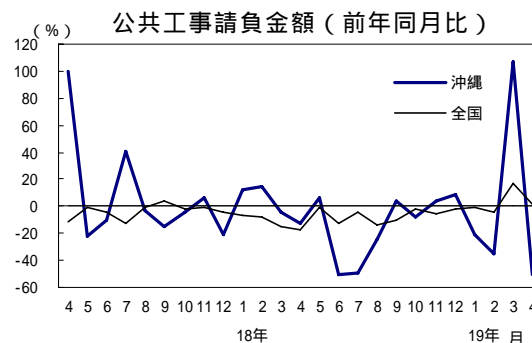
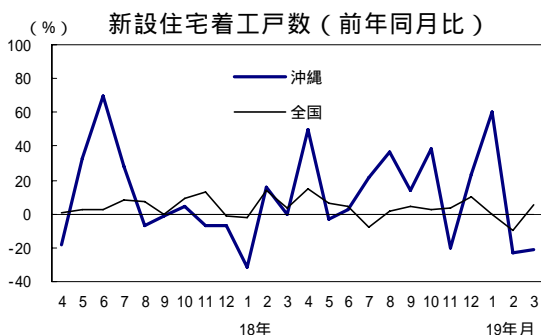
3. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

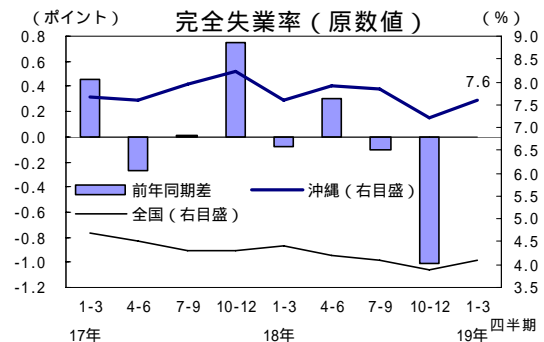
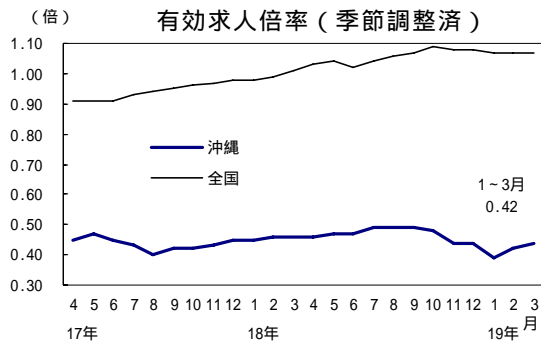


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

「求人依頼が特定業種に偏らず幅広く募集をかけられている。また、新規依頼も多く来ている(人材派遣会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

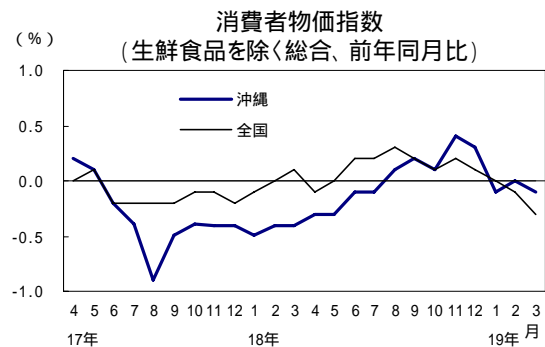
(2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数は増加している。

4月に件数が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月	19年4月
倒産件数	18	32	19	15	7
(前年比)	18.2	52.4	0.0	7.1	75.0
負債総額	53	90	285	14	16
(前年比)	72.2	67.7	698.7	75.0	36.2



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・修学旅行の人数の減少が一番大きく影響している。ゴールデンウィークについては前年より若干下回っている(観光型ホテル)

<先行き>

・県内の既存取引先がわずかながら販促経費への投資額が増加傾向にある。不動産・健康関連企業の販促活動も動き始めている。さらに、官公庁関連プロジェクトにおいても地域ブランド活性をテーマとしたマーケティング需要が高まる傾向にある(広告代理店)

景気ウォッチャー調査(合計)

